

区民の切実な願い実現する文京に全力!

区はがけ地の調査を、改修工事に助成を!



区内の擁壁・石垣が巨大地震に耐えられるか検証が必要です。区は、48カ所の「急傾斜地危険箇所」を台風などの際に目視で確認するだけで、安全対策は「所有者の責任」、「個人資産の形成になる」と改修工事への助成は行っていません。工事のための借入金の子補給(新年度予算は23万円)は行っていますが、これを利用し整備された崖は380mだけです。

私は、小竹ひろ子前都議とともに、がけ地調査を行いました。区内のがけ地は48カ所にとどまらず、改修には数千万億単位の費用が必要です。新宿のような区独自のがけ地調査やがけ地が一目でわかるカラーの「ハザードマップ」を作成し、がけ地の耐震診断・改修工事への助成を行うべきです。(金子てるよ)



開運坂の由来「あきらかに」

旧大塚坂下町の「開運坂」の由来について本会議で正しました。二〇〇八年、教育委員会案の案内板には、開運坂命名の由来は「よくわからない」としてあります。

しかし「講道館の月刊誌『有効の活動』」によれば(嘉納治五郎)師範邸の坂道を付近の人のために市に寄付された(其坂に師範が開運坂と命名された)と書かれていることを、地元「歴史を語る会」の様子とあわせ紹介。よく調査をして正確な揭示に変更することを求めました。

教育委員会は、今後詳細な調査と案内板の文面変更を表明しました。その際には、「講道館の開運坂道場」のことも記すよう求め続けます。(島元雅夫)



江戸川橋駅 念願のエレベーター設置へ!

江戸川橋駅へのエレベーター設置に向け動き始めました。地権者さんと東京メトロとの長年の協議が整い、建て替え後の建物の一部にエレベーターが設置される見通しが立ちました。

区議会予算委員会では、「設置場所は3番出口から江戸川橋交差点方向へ向かった所で、完成は2年後」と答弁しました。皆さんと20数年にわたり積み上げてきた運動が実に実を結びます。本当にうれしい限りです。

3月21日、小竹ひろ子前都議会議員とメトロに交渉に行き、建築確認後はメトロも出席し、速やかに工事説明会を開くこと。また、エレベーターの稼働開始時期を可能な限り早めるよう強く要望してきました。(いたくら美千代)

利用しやすい礫川地域活動センターに子育て施設の併設の検討も!



いよいよ今年度予算に礫川地域活動センターの設計費、工事費2,700万円が計上され、新施設建設に向けてスタートします。建設工事は2年間の予定です。一時は廃止も検討されただけに、地域にとっては待ちに待った新センターの建替えです。これから区民の意見を聞きとり、これまでに併設を決めている「高齢者あしん相談センター分室」のほか、区民に役立つ拠点施設とすべきです。「椅子席の会議室を」「バリアフリーの仕様に」「育成室や保育所など子育ての施設はできないのか」…など、施設に対する期待は大きいものがあります。近隣との合意を前提に、すでに取得している隣地と合わせれば一定規模の施設になることから、こうした要望をかなえる地域活動センターを望みます。(まんだち幹夫)

千石2丁目に保育園、児童館・子育て広場完成! 2期工事で地域拠点施設を建設



千石2丁目の千石公園隣地に、新しい千石保育園(1・2階)、児童館、第1・第2育成室、子育て広場(3階)が完成しました。3月17日、ピカピカの建物が公開されました。

4月からは2期工事が始まります。旧園舎を取り壊した後、千石地域拠点施設(大原地域活動センター、千石交流館、会議室などの複合施設)が2014年秋には完成する予定です。その後、公園も新しくリニューアルされます。

長年要望し続けた待望の区民施設です。しかし、区は昨年、行財政改革として、3階の児童施設全部を根津、目白台第2に次いで指定管理者に運営委託することを決めました。共産党は区が直営で行うべきと反対しました。(こうだ久美子)

地域の住環境を守る絶対高さ制限に!



高さ制限案は、幹線道路沿いでも住宅地でも制限値が高すぎる、高さの緩和で規制一杯の建物を誘導し、近隣紛争を防止するどころか、高い建物を容認する内容だと低く見直すよう求めてきました。

しかし、区が示した第4次素案は一部低くした所もありますが、15→17m、19→31m、50→60m、22・29→31m、29・31→39m等、全体的に高く修正されました。区民意見はどう生かされたのか疑問です。

本郷・湯島は大名屋敷に起源を持つ大学町、江戸の町割りが下町らしさを残している根津、寺町としての向丘・本駒込等、文京区の歴史があります。地域の特性を生かして低い制限値にすべきです。(高畑ひさ子)

元町公園と文化財に旧元町小を



元町公園と旧元町小学校に貢献されたことを紹介しました。先生は、元町公園が関東大震災後に最高の知恵と技術で作られ、都内に唯一現存する復興遺産である、元町小は昭和初期の学校の姿を留める数少ない建築物で、公園と一体で後世に遺す義務があると話されました。

私は、改めて公園と小学校を多くの方々と守っていく大切さを痛感しました。(関川けさ子)

元町公園と旧元町小学校の「文化財保存」をめざす準備会は、3月23日、鹿野陽子教授を講師に学習会を開きました。

私は、04年に東京都から文京区に文化財の打診があったが区は断ったこと、元町公園が総合体育館の建替え候補地とされた時、鹿野先生が公園を守るた

区議会の窓

議会最終日、議長が「辞任届」を提出した。わが党の即刻辞任要求に3月末迄続けたいという◆その数日前の新聞に「維新の都議候補」で名前が出た。区議会も寝耳に水!◆今期は自民党公認で当選し、議長になったのではないか◆自民党を辞め、議長を辞任した後に立候補するのが筋ではないか◆4月1日自民党の控室を出た。



千駄木の郷

文京区の財政運営これでいいのか? 厳しく見積もり区民に負担増

区は、「厳しい財政」を口実に、当初予算の歳入を低く見積り、事業の縮小・廃止の繰り返しで、9年間で総額七三四億円を新規積立。今年度も、都税収の伸びを見込まず予算を編成。区民には戸籍住民課証明書発行の業務委託、「受益者負担の適正化」をかざした幼稚園・育成室保育料と施設使用料値上げで八千九百万円の負担増とサービス削減予算の押し付けです。

貧困と格差が広がるなかで、大事な保育や福祉などの社会基盤への税金投入は当然です。所得のあるなし、公と民間、利用と非利用で区民を分断させる今回の「行革」は築き上げてきた区の福祉を後退させるもので、直ちにやめるべきです。